

当院における nCPAP を使用する OSAS 患者の検討

とく やす ひろ かず¹⁾ わた なべ えつ こ¹⁾ おか ぎき りょう た¹⁾
徳 安 宏 和¹⁾ 渡 部 悦 子¹⁾ 岡 崎 亮 太¹⁾
かわ さき ゆう じ¹⁾ し みず えい じ²⁾
河 崎 雄 司¹⁾ 清 水 英 治²⁾

キーワード：閉塞性睡眠時無呼吸症候群 (OSAS)，経鼻的持続気道
陽圧療法 (nCPAP)，ポリソムノグラフィー (PSG)，
体格指数 (BMI)

要 旨

当院において nCPAP を導入した OSAS 患者について性、年齢、BMI、合併症について検討を行った。また外来通院中の患者80名に nCPAP 治療についてのアンケート調査を行い結果について検討した。nCPAP 導入患者は170名で、平均年齢は57歳、男性148名、女性22名、平均 BMI は 27.2 kg/m²、平均 AHI は 42.2/hr であった。患者の38%に高血圧症、11%に心疾患、18%に不整脈、18%に糖尿病を合併していた。アンケート調査では、患者は nCPAP により日中の眠気が改善するなどの自覚症状の改善を認めるが、nCPAP の一番の問題点としては、器械のサイズが大きく持ち運びに不便であると回答した。また71%の患者は1年以内に使用に慣れると回答した。nCPAP の総合評価は平均66点/100点と回答し比較的低い評価であることがわかった。

はじめに

閉塞性睡眠時無呼吸症候群 obstructive sleep apnea syndrome (OSAS) は、2003年の新幹線運転手の居眠り運転などによりマスコミでも話題となり、さらに最近ではメタボリック症候群との関連からも注目されている。OSAS は睡眠中に

断続的に無呼吸を繰り返す、その結果日中傾眠などの種々の症状を呈し、特に心血管系合併症を引き起こし、生命予後を悪化させるという疾患の総称である。1997年頃から松江赤十字病院呼吸器内科では OSAS の診療を行ってきたが、患者にとってより適切な治療を行う目的で2003年5月より呼吸器内科、耳鼻科、歯科の3科連携による無呼吸外来を新たに開始した。2006年12月時点で毎週木曜日に行っている無呼吸外来受診者は約500人で、OSAS の確定診断を得るためのポリソムノグラフィー polysomnography (PSG) 検査件

Hirokazu TOKUYASU et al.

1) 松江赤十字病院呼吸器内科

2) 鳥取大学医学部分子制御内科

連絡先：〒690-8506 島根県松江市母衣町200